

地域の皆さまと病院をつなぐ

ごろまるだより

総合犬山中央病院広報誌 GOROMARU dayori

ごろまる医療のチカラ

脳卒中患者を受け入れ社会復帰までしっかりサポート 脳神経外科の地域密着型医療

副院長兼外科統括部長兼脳神経外科部長: 古市 昌宏

- ・病診連携の会を開催しました・台湾で開催された国際学会に参加しました
- ・あなたの健康、私たちと一緒に守りませんか？
- ・食中毒に気をつけましょう～食べ残し・飲み残しは『細菌パラダイス』～
- ・在宅患者訪問薬剤管理指導～薬の管理、かかりつけ薬局と連携してサポートします！～

Photo: 新人看護研修 2026.6.1



Vol.
140
2026
summer

ごろまるだより 2026 summer

Vol.
140

季刊 4 回発行 2006 年 8 月 1 日発行通巻 140 号 編集・発行人 社会医療法人 志聖会 総合犬山中央病院 〒484-8511 愛知県犬山市大字五郎丸字二タ子塚 6 TEL 0568-621811

在宅患者訪問薬剤管理指導 ～ 薬の管理、かかりつけ薬局と連携してサポートします！ ～



「薬が多くてたまに飲み忘れる」「どの薬をいつ飲めばいいかわからなくなる」などの不安はありませんか？そんな患者さんのために、かかりつけ薬局では「在宅患者訪問薬剤管理指導」を行っています。薬剤師が薬をご自宅まで届け、使用状況を確認しサポートする仕組みです。例えば写真のように、服薬カレンダーに事前に薬をセットしておくことで、飲み間違いが減り、飲み忘れも一目で確認でき、適切な服薬管理の助けになります。薬剤師が最適な方法を考えて整えるので、ご本人だけでなく周りで支えるご家族さまも安心です。このようなサポートは、医師の訪問診療を受けている方はもちろん、外来通院中の方でも利用できます。入院をきっかけに「薬の管理に自信がなくなった」という方はいませんか？かかりつけ薬局の薬剤師は、病院のスタッフと連携し、ご自宅でも入院中のように服用が続けられるようにサポートします。まずはお気軽に、医師・薬剤師にご相談ください。



Happy Medi-cap活動報告

「Happy Medi-cap ～犬山から命をつなぐワクチン支援プロジェクト～」では、多くの皆さまにご参加いただき、誠にありがとうございました。

今回のイベントでは、地域の皆さまから **46.0kg(約19,780個)** のペットボトルキャップをお寄せいただきました。このキャップを活用して、**ポリオワクチン23人分** を世界の子どもたちに届けることが可能となり、さらに **145kgのCO2削減** にもつながりました。また、皆さまのご協力により、犬山城をモチーフにした美しいキャップアートが完成しました。

完成したアートは、総合犬山中央病院 1階 外来処置室前に展示しています。ぜひ足をお運びいただき、地域の力で完成したアートをご覧ください。

このプロジェクトを通じて環境保護だけでなく、地域交流の場として多くの笑顔と絆を生み出したことに、心より感謝申し上げます。今後も皆さまとともに笑顔の輪を広げる活動を続けてまいります。



社会医療法人 志聖会 総合犬山中央病院

〒484-8511
愛知県犬山市大字五郎丸字二タ子塚 6
TEL.0568-62-8111 (代)
HP <https://www.inuyamachuohospital.or.jp/>

外来受付時間 8:00～11:00
休診日：日曜・祝日
救急は24時間365日受け付けています。

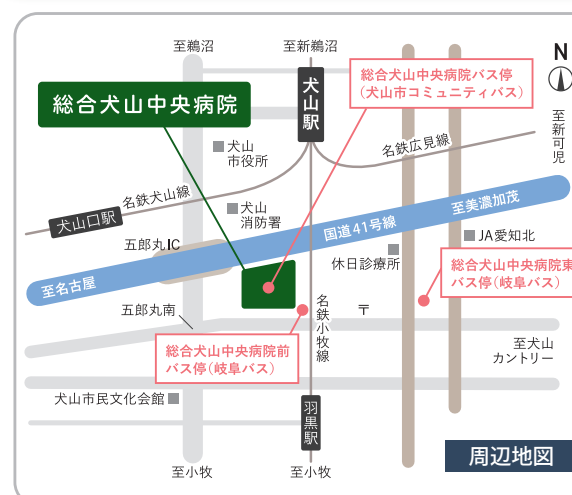
面会時間
月曜～金曜 15:00～20:00
土曜・日曜・祝日 13:00～20:00

総合犬山中央病院
理念

地域の人々が安心して暮らせる
心の支えとなる病院を目指します。

総合犬山中央病院
@inuyamachuogenerahospital

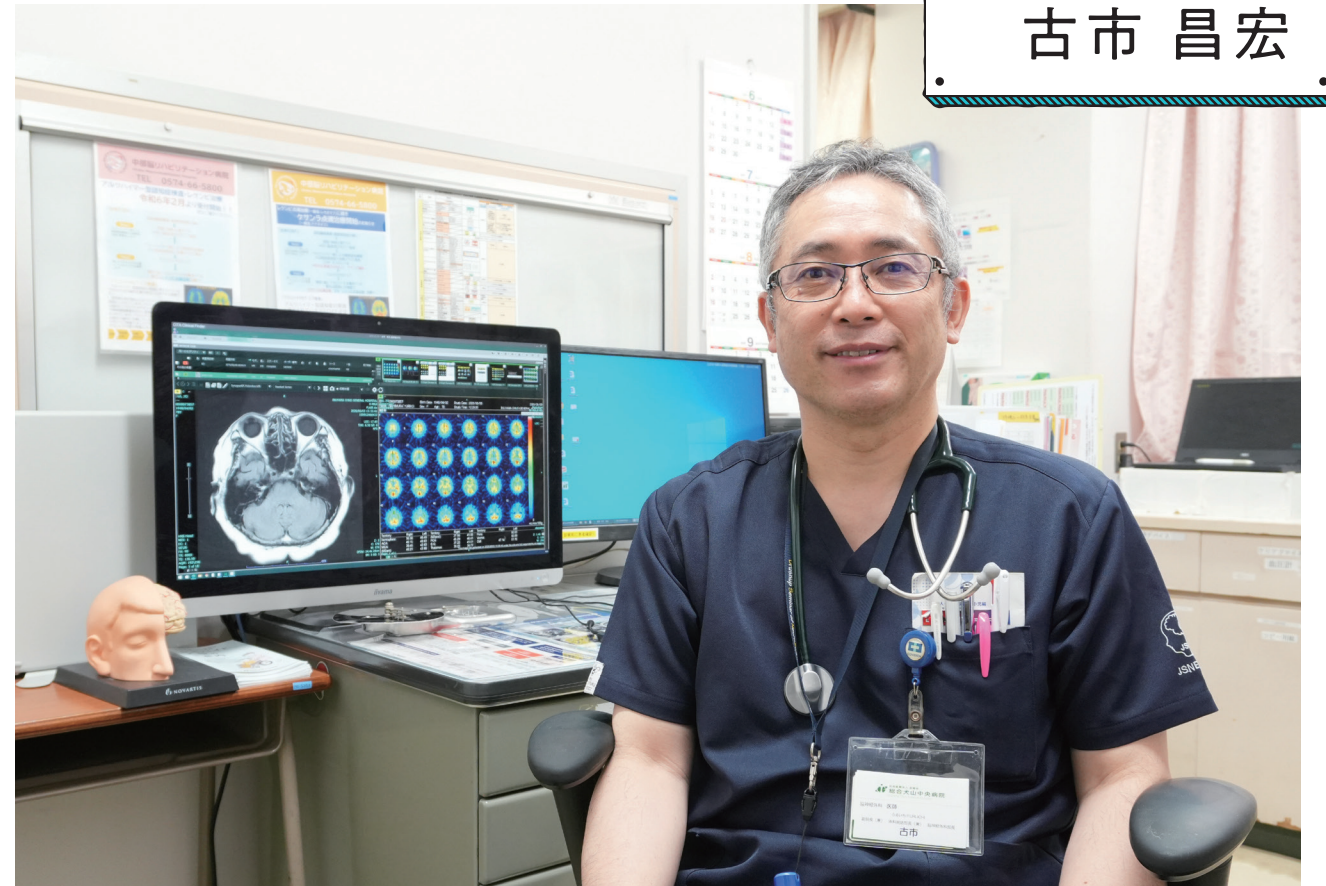
総合犬山中央病院チャンネル
@inuyamachuohospital-pr



社会医療法人 志聖会
総合犬山中央病院

副院長兼外科統括部長
兼脳神経外科部長
古市 昌宏

24時間365日体制で脳卒中患者を受け入れ 社会復帰までしっかりサポート 脳神経外科の地域密着型医療



当院の脳神経外科では、急性期脳卒中患者を24時間365日体制で受け入れているほか、急性期から慢性期まで幅広く脳の病気を診療し、地域の方々の健康を支えています。今回は、古市昌宏副院長兼外科統括部長兼脳神経外科部長に、現在の取り組みについてお話を伺いました。

患者さんに安心を提供する

一貫した医療を実現

―脳神経外科の特徴や強みを教えてください―

古市 当科では頭痛やめまいといった日常的なお悩みから、救急疾患、さらには退院後の生活を見据えた慢性期疾患まで、脳神経外科領域全般を対象に幅広く診療を行っています。一番の強みは、急性期の高度な専門治療から、回復期・慢性期の治療まで行えることです。患者さんが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう一貫した医療を提供することが私たちの使命だと考えています。

後遺症を最小限に抑え

社会復帰の可能性を高める

脳卒中の救急対応

―救急対応について教えてください―

古市 一刻を争う脳血管障害（脳卒中）や頭部外傷（急性硬膜下血腫・硬膜外血腫など）は、発症か

QOLを高める専門的治療や
高齢化社会を支える
日常の診療も

―脳神経外科における取り組みを教えてください―

古市 当科では、救急医療はもちろんのこと、良性・悪性脳腫瘍、未破裂脳動脈瘤などの段階的に進行する疾患や発見された病変についても専門的なアプローチを行っています。顕微鏡下手術、血管内治療など、体に負担の少ない低侵襲治療を取り入れ、機能を温存しながらQOL（生活の質）の維持・向上を目指した治療計画を立てており、当院での治療が難しい場合には高次医療機関を紹介しています。

また、未破裂脳動脈瘤や、認知症、てんかんなど、慢性期疾患に対

ら治療開始までの時間がその後の経過や後遺症の程度を大きく左右します。当科では、24時間365日体制で救急車を受け入れ、画像診断、血栓溶解療法（tPA静脈注射）や緊急手術などを迅速に行い、救命のみならず後遺症を最小限に抑える治療を速やかに実施します。

―脳卒中について教えてください―

古市 脳卒中は脳の血管が詰まったり破れたりすることによって起こる病気の総称で、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の3つに分類されます。脳卒中を引き起こす主な原因は動脈硬化だと言われているが、それを招く要因としては高血圧や糖尿病、その他の生活習慣などが挙げられます。

先ほども触れたとおり、脳卒中の治療は時間との勝負です。血栓溶解療法や血管内治療で血栓を回収するカテーテル手術は、症状に気づ



いてから病院に到着するまでの時間が短いほど治療効果が得られやすく、処置が早ければ後遺症を最小限に抑え、社会復帰できる可能性が高くなります。「少し休めば良くなる」と自己判断せずにすぐに病院を受診することが肝要です。

―脳卒中についてのアドバイスをお願いします―

古市 脳卒中は「急に」起こるのが特徴です。直ちに救急車を呼ぶべき脳卒中の症状「FAST（ファスト）」を覚えておきましょう。F（Face：顔面の麻痺）：顔の片側がゆがむ、「イー」と発音すると片側の口角が下がる。A（Arm：腕の麻痺）：片側の腕に力が入らない、両腕を前に上げると片側が下がってしまう。S（Speech：言葉の障害）：ろれつが回らない、言葉が出てこない、理解できない。これら「FAST」の症状のうち一つでも当てはまると脳卒中の可能性が高く、3つすべてだと85%以上で脳卒

中であると言われています。最後にT（Time：発症時刻）：症状がいつから始まったか、最後に元気がだったのはいつかを確認し、救急車を呼びましょう。この「FAST」の認知度を高めることで、脳卒中が起きたときに本人だけでなく周りの人も判断や行動がしやすくなるため、外来でリーフレットを配布して啓発を行っています。なお、脳出血やくも膜下出血の場合には、バットで殴られたような激しい頭痛や嘔吐、痙攣などの症状がみられることがあります。この場合もすぐに救急車を呼びましょう。

脳梗塞であれば、発症から4.5時間以内で条件を満たせば血栓溶解療法を受けることができ、6時間以内であれば血栓回収療法を行うことが可能です。発症時刻を記録しておきましょう。病院に到着してから必要な検査を行い、治療を開始するまでに1時間ほど必要です。症状があれば速やかに救急要請して専門病院を受診してください。



2026年5月、日本認知症学会専門医の資格を取得「今後も認知症医療の発展に尽力してまいります！」と古市医師。



物忘れについて

「年齢を重ねて物忘れが増えた」という方は多くいらっしゃいますが、加齢による物忘れと認知症による物忘れは大きく異なります。認知症は、脳の病気により記憶や思考力が低下し、日常生活に支障をきたす状態です。脳神経外科では、加齢によるもの忘れとの早期鑑別を行い、MRIなどの精密検査や認知機能テストを用いて正確に診断し治療方針を決定しています。

「単なるもの忘れ（加齢）」と「認知症」の違い

加齢による物忘れでは体験の一部を忘れますが、認知症では体験そのものを忘れてしまうのが最大の特徴です。

単なるもの忘れ（加齢）

- 食べた内容を忘れる
- 約束をすっかり忘れるがメモを見れば思い出せる
- 日常生活に支障はない

認知症による物忘れ

- 食べたこと自体を忘れる
- 約束したこと自体を忘れる
- 家事や金銭管理など日常生活に明らかな支障がでる

見逃してはいけない初期症状

認知症の初期症状は加齢による物忘れと区別が付きにくいのですが、以下のような兆候が現れ始めたら注意が必要です。

- | | |
|------------|---|
| 記憶の障害 | 同じ質問を何度もする、直前の予定や約束を忘れる |
| 物盗られ妄想 | 物の置き忘れを「誰かが盗んだ」と疑う |
| 見当識障害 | 今日が何日か、今どこにいるのか分からなくなる |
| 性格の変化 | 怒りっぽくなる、無気力になる、身だしなみに無関心になる |
| 理解力・判断力の低下 | 料理が段取りよくできない、味付けがおかしい、家電が使えなくなる、硬貨での買い物ができずお札で支払う |



認知症の治療

認知症の治療は進行を遅らせることが主な目的ですが、早期発見・早期治療介入するほどQOLのよい状態を長く保つことができます。治療には、有酸素運動や脳を刺激するレクリエーションなどを日常的に取り入れて脳の機能を活性化する「非薬物療法」と「薬物療法」があります。薬物療法では症状の進行を緩やかにする標準薬に加え、脳内の原因物質を減らす新薬が2024年より使用可能となりました。新薬は、アルツハイマー病の原因となるアミロイドβを排除することで認知症の進行抑制効果が期待できます。



古市先生からのメッセージ

当院のもの忘れ外来（認知症専門の外来）では丁寧な問診や検査が必要となるため、初診は完全予約制です。また、普段の様子をよく知るご家族の同伴や、日常生活の状況をメモしたものを準備いただきますと診察時間が短縮できますのでご協力をお願いいたします。もの忘れの兆候に気づいたら早めに受診ください。
※診療時間、水・金：9:00～ 詳しくはお問い合わせください。

しての日常の診療も行い、高齢化社会を支えています。特に認知症については、毎週水曜日にももの忘れ（認知症専門）外来を設けています。認知症の専門医が診察を行っており、問診、神経心理学的検査、CT・MRI（核磁気共鳴画像）などのさまざまな検査を組み合わせて総合的に診断しています。健康な加齢と認知症の中間に位置する「軽度認知障害」は、65歳以上の有病率が15％と報告されていますが、適切な対応により改善や進行抑制が可能です。早期発見と生活習慣改善、認知機能への介入が重要ですので、もの忘れの兆候に気づいたら早めに医療機関を受診しましょう。

そのほか、歩行障害や認知症状を改善できる慢性硬膜下血腫の穿頭血腫除去術や、正常圧水頭症のシャント手術なども積極的に行い、自立した生活への復帰をサポートしています。

当科の強みは、急性期治療を終えた後も回復期リハビリテーション

ンや地域包括ケアのスタッフ、さらには地域のかかりつけの先生方と深く連携し、患者さんお一人おひとりと長くお付き合いができる点にあります。「遠方に行かなくても安心して治療が受けられる診療科」をモットーに、地域の方々に信頼していただける医療を提供していきたいと考えています。

病気の発症を防ぎ

生活習慣改善のきっかけ

にもなる「脳ドック」

―特に力を入れている予防医療「脳ドック」についてお聞かせください

古市 当院では予防医療として



患者さん一人ひとりに寄り添う
外来スタッフの皆さん。

「脳ドック」に注力しており、年間600件以上施行しています。脳ドックは自覚症状のない段階で脳血管障害（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血）や認知症のリスクを早期発見・予防するための検査です。MRIや頸動脈エコーを活用し、脳動脈瘤や血管の狭窄などを早期に発見します。①40歳以上の中高年層 ②高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病がある方、または肥満傾向の方 ③喫煙、飲酒の習慣がある方 ④血縁者にも膜下出血など脳血管障害の家族歴のある方には脳ドックを推奨しています。脳血管障害はいったん発症すると重い後遺障害が残るリスクが高い病気です。例えば脳動脈瘤は破裂するとくも膜下出血となり重度の後遺症を残すか亡くなる方も多いのですが、脳ドックで見つけられれば血管内治療や開頭手術で破裂前に治療可能です。また、予防医療としての脳ドックは病気の発症を防ぐだけでなく、動

Dr. profile

ふるいち まさひろ

1994年岐阜大学医学部卒業。同附属病院脳神経外科、総合大雄会病院、高山赤十字病院、岐阜赤十字病院を経て2001年に総合犬山中央病院に赴任。国立病院機構長良医療センターを経て2006年に再び総合犬山中央病院に赴任し、2011年に脳神経外科副部長に就任。2015年から血管内治療脳神経外科部長を務め、2026年に副院長兼外科統括部長兼脳神経外科部長に就任。日本認知症学会専門医、日本脳神経外科学会脳神経外科専門医、日本脳神経血管内治療学会脳血管内治療専門医、日本脳卒中学会専門医など。

脈硬化の進行を防ぐための生活習慣改善（禁煙、節酒、血圧管理など）の動機付けとしても非常に重要な役割を果たします。気になることがある方や、①～④に該当する方は、ぜひ一度受けることをおすすめします。犬山市では、条件を満たす方に対して脳ドック費用の助成を行っていますので、そちらもご確認ください。
これからも多職種が丸となり、地域の皆様がいっまでも安心して暮らせるよう、頼れる脳神経外科として医療を提供できるよう努めてまいります。頭の健康に関する不安がございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。



健康管理センターからのお知らせ

★あなたの健康、私たちと一緒に守りませんか？

ご自身やご家族の健康管理は大切です。毎日の生活をより充実したものにするために、日頃の健康管理、健診受診、気になる検査項目について当健診センターにご相談ください。



採血でできる膵臓がん検査

おすすめオプション

【CA19-9+アポリポ蛋白A2(APOA2)】
70%を超える感度で膵臓がんの発見に役立ちます。
5,800円(税込)

子宮頸がん検診

常時女性医師対応

経膣超音波検査付き

子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫などがわかる経膣超音波(エコー)を子宮頸がん検診時に、一緒に**無償**で検査しています。
3,300円(税込)

3Dマンモグラフィ検診 2026年4月導入

通常のマンモグラフィに加え、角度を変えて多方向から撮影します。0.5mm幅の乳房の画像が厚みによって多数得られることで、内部を細かく描出します。

期間限定導入キャンペーン価格 **8,800円**(税込)

頸動脈エコー検査 おすすめオプション

動脈硬化を調べる検査です。動脈硬化を放っておくと脳卒中(脳梗塞・脳出血)や心臓病(心筋梗塞・狭心症)など重い病気を引き起こす恐れがあります。

3,300円(税込)

令和8年度 犬山市・大口町・扶桑町 住民健診ご予約承っています！

【ご予約・お問い合わせ】総合犬山中央病院 健康管理センター
直通(0568)-62-8246 代表(0568)-62-8111



食中毒に気をつけましょう

～食べ残し・飲み残しは『細菌パラダイス』～



ペットボトルにおける菌の増殖予防方法

- ★口をつけて飲んだペットボトル飲料を持ち歩く場合は、保冷剤と一緒に保冷バックに入れて持ち歩く「**常温なら2～3時間以内**」「**冷蔵庫に入れても24時間以内**」なるべく早く飲み切る。
- ★開封したペットボトルは、口をつけていなくても冷蔵庫保管で2～3日以内を目安に飲み切る。
- ★ペットボトルの使い回しはしない。

食中毒予防3つの対策！！

- 菌を付けない** 調理前や生肉を触ったあとは、念入りに正しい手洗いをを行う。
- 菌を増やさない** 料理は常温で放置せず残ったらずちに冷蔵庫で保管。カレー等は底の浅い容器に分けて急速に冷まし、冷蔵庫に保管し長期保存しない。加熱しても死滅しない菌があります。**味やにおいに変化がない為、要注意！！**
- 菌をやっつける** 肉や魚は中心部までしっかり加熱(75℃で1分目安)



これらの対策を実現し、安全で美味しい食生活を送りましょう。



地域連携支援センターからのお知らせ

病診連携の会を開催しました

外部連携チームの2025年度の活動についての報告

2026年4月23日(木)、当院にて「第7回病診連携の会」を開催いたしました。当日は25名の方々にご参加いただき、また、大変ご多忙の中、地域連携医療機関から5名の先生方にもご出席いただきましたこと、心より御礼申し上げます。

会の冒頭では、当院理事長である竹腰より挨拶があり、その後、外科副部長の館 正仁医師による講演「当院外科手術のご案内と今後の連携強化に向けて」が行われました。

講演後には、参加いただいた先生方からご質問やご意見を多くいただき、活発な情報交換と意見交換が行われました。本会を通じて、地域医療機関の皆さまと連携を深める貴重な機会となったことを大変嬉しく思っております。



外科副部長
館 正仁 医師

台湾BSC学会報告のポスターセッションで、60題中見事2位に選ばれました

2026年5月30日(土)、台湾の台北市で開催された国際学会「台湾THBSC国際シンポジウム」に参加してまいりました。本シンポジウムは、世界中から医療業界の専門家が集まり、医療分野におけるBSC(バランスト・スコアカード)の活用およびその可能性について議論を深める場となっています。今年のテーマは「医療業界の人手不足解消に向けたBSCの役割」であり、各国から多彩な視点を持った発表が行われました。当院からは「総合犬山中央病院地域連携支援センターのBSC(第2報)」というテーマでポスター発表を行い、見事2位の評価を受けることができました。



【会場の衛生福利部 台北医院】

BSCとは4つの視点から評価していくためのツールです。

地域連携支援センターではこのBSCを導入し、『この地域で選ばれる地域連携支援センターになる！』という目標を掲げ、継続的に様々な活動に取り組んでいます。例えば、地域の医療機関との連携強化、患者さんにとってより良いサービス提供のための体制づくりなどです。昨年度は、退院支援に関して患者さんへの満足度アンケートを実施し、多くのご意見をいただきました。それを基に、今後も継続して業務の見直しを行い、日ごろの支援をより充実したものにしていきたいと考えています。

【相談窓口のご案内】

相談窓口では、患者さんやご家族の入院及び生活に関する不安等、様々な相談をお伺いする窓口です。退院支援看護師、社会福祉士等が対応します。お気軽にお越しください。

- ◎相談窓口：本館2階 地域連携支援センター内
- ◎相談時間：月曜日～金曜日 8:30～17:00 土曜日 8:30～13:00 日祝年末年始を除く
- ◎連絡先：0568-62-8200